

令和6年度本別町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、十勝の東北部に位置し、十勝川支流、利別川沿いに広がる肥沃な土地に恵まれ、良質な豆を特産品とした畑作と酪農が調和した農業を展開している。近年は、農家の高齢化が進み、農家戸数の減少がみられるため、担い手の確保が重要となっている。また、麦・大豆については、天候不順による単収低下や年次による変動が顕著となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

輪作計画に基づいた輪作体系を基本としつつ、排水対策や土壌分析の実施による適正な施肥管理等により、収量、品質の向上による収益力向上を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

近年においては水稻の作付がなく、現状では作付を行う予定がないことから、令和8年度までに畑地化の検討を進め、生産者等との協議をしたうえで、地域の将来像や生産者の経営計画に対する効率的な土地の利用について具体的な計画を作成、実施していく。

4 作物ごとの取組方針等

適地適作を基本とし、産地交付金を有効に活用しながら作物生産の維持・拡大を図る。

(1) 主食用米

作付なし

(2) 備蓄米

作付けなし

(3) 非主食用米

作付なし

ア 飼料用米

イ 米粉用米

ウ 新市場開拓用米

エ WCS 用稲

オ 加工用米

(4) 麦、大豆、飼料作物

輪作計画に基づいた輪作体系を確立しつつ、排水対策や団地化を継続して高品質生産を目標に基幹作物振興に努めていく。また、離農や労働力不足による不作付地の発生を防ぐため、担い手への農地集積を図り、作付面積の維持に努める。

(5) そば、なたね

作付なし

(6) 地力増進作物

作付なし

(7) 高収益作物

輪作計画に基づいた輪作体系を確立しつつ、排水対策や団地化を継続して高品質生産を目標に基幹作物振興に努めていく。また、離農や労働力不足による不作付地の発生を防ぐため、担い手への農地集積を図り、作付面積の維持に努める。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。